



Piano Recital vol.34

佐伯 周子

Saiki Shuko

2025年 9月11日 (木)

19時開演 18時30分開場

ムジカーザ MUSICASA

〒151-0066 東京都渋谷区西原3-33-1

Tel.03-5454-0054

◆Access 小田急線・東京メトロ千代田線
[代々木上原駅]東口より徒歩2分

LUDWIG VAN BEETHOVEN

ピアノ・ソナタのタベ ～ 初期、中期、後期から～

～ Programm ～

ピアノ・ソナタ 第4番 変ホ長調 作品7

Klaviersonate Nr.4 Es-Dur op.7

ピアノ・ソナタ 第16番 ト長調 作品31-1

Klaviersonate Nr.16 G-Dur op.31-1

ピアノ・ソナタ 第30番 ホ長調 作品109

Klaviersonate Nr.30 E-Dur op.109

【チケット】 ■前売り券 ¥3,500

■当日券 ¥4,000

■学生券 ¥2,000

Teketにて電子チケットも
取り扱っております。→



◆お申し込み/お問い合わせ◆ ピアノミュージックジャパン

☎ 080-5528-3281 / ✉ piano.music.japan2004@gmail.com

【主催】ピアノミュージックジャパン

【後援】ベーレンライター社(ドイツ・カッセル) B-tech Japan
公益社団法人日本演奏連盟 洗足学園音楽大学/大学院
オーストリア大使館/オーストリア文化フォーラム
一般社団法人 全日本ピアノ指導者協会(ピティナ)



オーストリア文化フォーラム
austrian cultural forum

© Uwe Newmann



Saiki Shuko Plays Beethoven

シューベルトのピアノソロ作品全曲演奏に長年取り組んでいる佐伯周子。

その歩みの中で、ベートーヴェンという存在が、次第に大きな意味を持つようになっていったようだ。

音楽のかたちを模索しながら、時代と向き合い、人生を刻んだ作曲家ベートーヴェン。

今回のプログラムでは、初期・中期・後期それぞれから一作を選び、

その変化のなかに浮かび上がる深い問いかけを辿ろうとする。

ベートーヴェンが音に込めた思いに静かに心を寄せる——そんな時間がきっと訪れることだろう。

未来を見据えたベートーヴェン

ベートーヴェンのピアノソナタは、1795年（op.2）から1822年（op.111）に作曲されている。

ピアノソナタ史の流れの中での位置づけとしては、

◎モーツァルトのピアノソナタ全曲（1789年完結）→ ハイドンのピアノソナタ全曲（1795年完結）→ ベートーヴェン（1795～1822年）→ シューベルト中期（1822～1828年）という順序にある。

モーツァルトとハイドンが確立した「古典派ソナタ形式」を継承し、それを発展させてロマン派へとつなげたのがベートーヴェンである。今回の演奏会では、その全32曲の中から、ベートーヴェン自身を含む後世に大きな影響を与えたソナタ3曲を取り上げる。

■《協奏曲や交響曲に匹敵するスケール感で描かれた初期の大作》ピアノソナタ第4番 op.7

モーツァルトの交響曲第41番《ジュピター》、ハイドンの交響曲第104番《ロンドン》をも上回る、大きな時間的スケールをもつピアノソナタ第4番 op.7。その構想は、すでに三つのピアノ三重奏曲 op.1 の時点から抱かれていた。

それまで基本的に三楽章構成が主流だったピアノ三重奏曲やピアノソナタにおいて、op.1、op.2 を四楽章形式で出版したことは、ベートーヴェンが新たな形式感に挑戦していたことを示している。そのひとつの到達点が、このop.7 である。この作品で「長時間を音楽的空間で満たす」ことが可能になったことで、続くピアノ協奏曲第2番 op.19、第1番 op.15、交響曲第1番 op.21 へと展開し、ベートーヴェンはモーツァルトやハイドンの「後継者」としての評価を確かなものとしていく。

■《シューベルトの遺作ピアノソナタ群に通じる終楽章をもつ作品》ピアノソナタ第16番 ト長調 op.31-1

「シューベルトはベートーヴェンを生涯敬愛し続け、葬儀に参列し、命日には追悼演奏会を開いた」というエピソードは広く知られている。この第16番 op.31-1 の終楽章は、そのシューベルトが晩年に遺したピアノソナタ第20番 D959 の最終楽章に、直接的な影響を与えたとされている。この作品が存在しなければ、シューベルトの遺作3大ピアノソナタもまた、今とは異なる姿をしていたかもしれない。

■《ベートーヴェン“晩年の変奏曲”の原点》ピアノソナタ第30番 ホ長調 op.109

ベートーヴェン晩年の創作を語るうえで欠かせないのが、「変奏形式」と「フーガ」である。

後者は第28番 op.101 にすでに現れていたが、変奏形式を深く探求する歩みが本格的に始まるのは、この第30番からだと言われている。この作品を起点に、ピアノソナタ第32番 op.111、ディアベリ変奏曲 op.120、さらには弦楽四重奏曲第12番（op.127）、第14番（op.131）、第16番（op.135）と、後期の傑作群が次々に生み出されていく。

◆ 次回公演のご案内 ◆

第5回 2026年1月26日（月）

東京文化会館小ホール 開演 19時（開場 18時30分）

〒110-8716 東京都台東区上野公園5-45

●JR上野駅公園口徒歩1分／☎03-3828-2111

ピアノソナタ 第18番 ト長調 D894 「幻想ソナタ」

ピアノソナタ 第9番 ホ長調 D459A + D506(4楽章)

ピアノソナタ 第6番 ホ短調 D566(3楽章)



上記リサیتال(1/26)の
チケットもTiketにて
取り扱っております。→

佐伯周子
YouTube
チャンネル→



～今後の予定曲目（日時未定）～

第6回 ピアノソナタ 第15番 ハ長調 D840 「レリーク」
ピアノソナタ 第13番 ヘ短調 D625 + D505(4楽章)
ピアノソナタ 第7番 変ニ長調 D567 + D593/2(4楽章)

第7回 「さすらい人」 幻想曲 ハ長調 D760
ピアノソナタ 第3番 ホ長調 D459 + D604(3楽章)
ピアノソナタ 第5番 変ホ長調 or 変イ長調 D557(3楽章)
10の変奏曲へ長調 D156 (ピアノソナタ D157の初期稿)
メヌエットイ長調 D334 (ピアノソナタ D157の初期稿)
メヌエットイ短調 D279/3 (ピアノソナタ D279の初期稿)
スケルツォ変ロ長調 D593/1 (ピアノソナタ D567の初期稿)

第8回 ピアノソナタ 第21番 変ロ長調 D960 「遺作」
ピアノソナタ 第7番改訂稿 変ホ長調 D568(4楽章)
ピアノソナタ 嬰ハ短調 D655(1楽章)